

私と父のワクワク旅行

山陽小野田市立高千帆中学校1年 山本 貫太

「貫太、あんな大きな飛行機が空を飛ぶってすごいなあ！」コロナ禍で旅行に行くことができず、空港へ行き旅行気分を味わおうと父と私とのワクワク旅行が幕を開けた。

「タンクローリーから飛行機に燃料を入れてるだろ。あの燃料には税金がかかっているんだよ。飛行機が離発着する時にも着陸料という税が発生するんだよ。」と話してくれた。私達の身の回りは税金ばかりだなあと考えた。母が小学生の時、「貫太もきちんと消費税を支払っているよね。学校の教科書やゴミの収集、消防車や救急車の出動にもちゃんと税金が使われているのよ。」と聞いた記憶がある。

私はまだ仕事をしていないのでたくさんの税金を支払うことはできないが、この税金が私達の生活に大きく役立っているのだから、きちんと税金を支払って、私達の日々の生活が安心して過ごせるようにはならない。税金を支払うという負のイメージを持つのではなく、私の払った税金で誰かが笑顔で生活している。今、コロナ禍で多くの人が仕事を失ったり、十分な医療を受けられない人々のニュースをよく目にする。同じ一人の人間としてたった一つしかない命を、私達の支払う税金で救うことができるのであれば、私は多くの人に税金を払うことでみんなが明るく、元気になれるのですよ！と声を大にして言いたいと思う。

飛行機を見に来た子供を抱いているおじいさんがおいしそうにビールを口にしている姿を見て、「あのビールのあわが税金かなあ。」と笑って話してくれた。また税金かと思ったら、「貫太も大きくなってお酒を飲む時は、税金に乾杯！と言ってからお酒を飲むようにね。」と父は空港でのワクワク旅行を楽しんでいた。その反面で私達がワクワク旅行を楽しんでいる時も医療従事者の人は必死に目の前の命と戦っている。限られた税金で、国債も多く財政に余裕がないのはわかっているが、わずかでも良いので感謝の気持ちとして税金をこの医療従事者の方へ還元することができたらどれほどたくさんの笑顔が増えるだろうか。私一人の力では何もできない。みんなで力を合わせて、支え合って生きていくことの素晴らしさをみんなで感じていきたいと思う。

これから日本は高齢化社会を迎えることになる。病院や施設を確保することも必要である。お金がないので病院に行けないという悲しい話も耳にするが、みんなこの世に生まれてきたからには平等なので、是非税金をここでも有効に使ってもらいたいと思う。

ワクワク旅行から帰宅して母に「母さん、僕はお店でよく消費税を支払うのだけど、近頃どうも財源が乏しくなってきたので、今月からおこづかいを上げてくれない？」と丁寧にお願いすると、「わかったわ、その分お父さんのビールの本数を減らそうね。」と母の笑顔の横で父はビールを飲む手を置き、手で大きくバツェンを作って笑っていた。